

令和2年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑫課題: 浅耕播種技術や不耕起播種技術による丹波大納言小豆ほ場の雑草防除の検討(30~2年度)

代表者: 京都府農林水産技術センター農林センター 作物部長 安川博之

目的

丹波大納言小豆の減収要因の一つとなっている雑草防除対策を検討するために、狭条密植栽培を前提として、浅耕播種技術や不耕起播種技術と、中間管理技術である除草カルチによる機械防除や吊り下げノズルでの除草剤処理との組合せを検討する。

成果

①除草剤の体系処理と中間管理技術による丹波大納言小豆ほ場の雑草防除の検討

・初期除草剤の体系処理に異なる2種類の間管理技術(除草カルチ機、除草剤の畦間散布)を組み合わせた手法が、外来ホオズキ類を含めた雑草に対して有望な防除体系であると確認できた。

②現地実証(播種法+除草剤の体系処理+中間管理技術)

・浅耕播種+除草カルチ処理、慣行播種+除草剤の畦間散布処理等の処理を現地圃場で実証したところ、浅耕播種技術や現地慣行播種技術に、初期除草剤の体系処理と中間管理技術を組み合わせた体系は、外来ホオズキ類の除草効果が高く収量も確保できた。

現地実証ほ場での雑草防除体系の違いによる収穫時の雑草発生量と小豆収量

所在地	試験区 No	試験区	雑草地上部重(g/m ²)		精子実重 (kg/10a)
			外来ホオズキ類	全雑草	
K市K町	K1	K除草カルチ2回区	0.0	2.7	329.8
	K2	K除草カルチ1回区	0.0	2.1	324.8
	K3	K現地慣行区	0.0	3.6	288.5
K市U町	U1	U畦間散布区	112.2 b	113.3 b	248.2 a
	U2	U除草カルチ区	621.7 b	622.1 b	223.2 a
	U3	U現地慣行区	5316.8 a	5316.8 a	91.2 b
F市I町	F1	F畦間散布区	0.0	408.5	256.8
	F2	F畦間散布無し区	5870.9	6252.7	229.2

・雑草調査はK市U町10/22、K市K町11/5、F市I町10/21に実施。

・U1区の畦間散布はパワーガイザー液剤、F1区の畦間散布はバスタ液剤を散布した。

・表中のデータ横にあるa~bは、縦の異なる文字間でtukeyの多重検定により1%の有意差あり。

・精子実重の穀物水分は15%に換算。